



大学生×議員

～福岡教育大学～

次世代を担う若者に、少しでも議会の存在を身近に感じてほしいという思いから3月30日、議場で福岡教育大学3年生の熊田羽倭(うい)さん、土肥千奈(ちな)さん、門司奈々(なな)さんと、広報編集部会の石松修議員、北崎正則議員、石田和代志議員で意見交換を行いました。議場見学や模擬採決も体験してもらいました。

◆自己紹介

熊田.. 小学校の先生を目指して、日々勉強頑張っています。出身は名古屋市なんですけど、この3年間で宗像市のいいところもたくさん行きましたので、今日、たくさんお話ができたらいなと思っっています。

土肥.. 私も小学校の先生を目指しています。今、持続可能な社会に興味を持っていて、宗像市でボランティアに参加したり、持続可能な社会を見てみたいと思っって、この春バりに行きました。今日は議会のことについてたくさん教えていただきましたと思っっております。
門司.. 私は宮崎県出身で、将来は宮崎県で教師をしたいと思っっております。

興味でサーフィンをしていて、海に興味があり、大学の研究でも海の環境についてSDGsと関連させて勉強しています。

◆ごみ問題・リサイクルについて

北崎.. 門司さんがサーフィンのお話をされたので、宗像の海に関して、ごみ問題とか気になるようなことがあったら教えてください。

門司.. 私は大学のボランティアで、玄海学園支援プロジェクト「ブリッジ」に参加していて、地島に月に1、2回ほど行っています。以前、子どもたちがSDGsの発表をしているのを聞いたことがあって、子どもたちがごみを減らすため、魚のために何かできることを考えるっていうのがありました。その発表の後、地島に行って海を見たら、ごみがなかなか減っていないし、地元とは違うごみの種類やごみの多さがとても気になりました。

石松.. ごみの話が出たので、大学生活の中で思っったことを聞かせてください。
熊田.. ひとり暮らしなので、ごみをマシヨンのごみ置き場に出すんですけど、

ど、缶とかビンを持てる場所がありません。自家用車を持っている人はスーパーなどに行って、ペットボトル、缶、ビンを分けて捨てるし、新聞紙や段ボールを分けて出す機会はあるんですけど、ひとり暮らしで車を持ってなくて、困っている子は結構います。

石田.. 歩いて行けるところに、分別収集の会場はありませんか。地域で月に1回、分別収集をやっていると思うんですけど、

熊田.. 自分がそこに捨てていいのかわかっています。
石松.. 管理会社の方とか、市に相談したり聞いてみたりしましたか。

熊田.. 最近は自家用車を持ったので、スーパーに捨てに行くようにしています。ですが、相談はしたくないです。
土肥.. 私の周りだと、そもそも分別しようという意識がない人が多いと思います。捨てるにしようと思っっちゃなくて、全部一緒のごみ箱に入れてしまっという。「分けようよ」って私が声をかけても、「面倒くさい」で終わっってしまう。意識の問題なんですけど、たくさんいるんじゃないかなって思っていまして、そこが問題だとは感じて

います。



石松.. 皆さん大学生なので、インターネットで検索できるかと思うんですけど、そもそも市の広報紙が学生さんのアパートにも入っていない。今度から、地区によっては広報紙のポスティングが開始されて全戸配布されるようになるんですけど、ごみの回収は市の仕事なんですよね。ただ皆さん、現実問題困っている。皆さんとしてもどうしたらいいかわからないところがあるので、こんなふうにしたらいんじゃないかとあります。例えば、大学にステーションをつくるのはどうかとか。この問題に対してどうやったらいいなっていうのはありますか。

土肥.. 私の周りだとそもそも知らない

ことが多かったので、もっと情報を知ること、今おっしゃっていただいたように学校に設置する場所を置っくっていうのは、コストの面もあるかもしれないですけども、そうするともっと持っていきやすい人も増えるんじゃないかなって思いました。

北崎.. 先ほど言われた、「面倒くさい」という言葉がキーワードになっていると思っんです。それは、私たちも住民として「面倒くさい」というのがあって、私はさつき松原を、少年野球の子どもたちと、年3回ごみ拾いをしているんですけど、そういう意識がだんだん変わっくと量が減っってきます。市の広報紙はなかなか学生は見ないから、学校新聞でPRをしていかないといいのかなと。僕がちよっとショックだったのは、宗像市は分別ごみの回収率が高いっていうイメージがすごくあったんだけど、あなたたちの話を聞いていると、一昔前の宗像市みたいで

す。皆さんが今後先生になるなら、子どもたちに指導しないといけないからごみを捨てたらいいかなって言わないといけない。そこが一つ大きなところかなって思っいます。

◆教員不足について

石田：福岡教育大学の学生の中から、学校の先生になる人は今どれくらいいる割合でいますか。

熊田：私の感覚だと、5人に1人ならない子がいるくらいかなと思います。先生になるという意識で入ってきた子が多いので、そのまま教育関係の勉強をとか、やっぱり子どもが好きだなあとか、いい授業をしたいなああっていう気持ちが高まる人が多いなと感じています。

門司：教育実習が3年生の9月、10月にあったんですけど、それを経験した後に、やっぱり自分は教員に向いてないから、教員以外の道に行きたいとか、そういう先輩方も私の周りには結構いました。福岡教育大学だから教員になりたくて行っている友達も多いと思うんですけど、入ってみたら意外と教員以外の道を目指す人が多いなっていうのが私の印象です。

北崎：特に今、福岡県は先生が足りません。だから、皆さんみたいに先生を志して入ったのなら、実習で向いてな

いって思っただけで諦めるのではなく、ぜひトライして頑張ってくださいというのを、元教員としての思いです。実習を受けた後の感想はどうですか。

王肥：私は、3週間の実習の中で、すごく大変だったんですけども、つらいと思ってもやりがいを感じられた、もっと先生になりたいなっていう気持ちが高まりました。

石松：これは市の課題でもあるんですよね。先生の確保で欠員になってしまっていると、子どもたちの教育の保障ができなくなるので。今その辺りが大変って聞いています。さっきやりがいて言われたんですけど、皆さん「#教師のバトン」っていうハッシュタグは知っていますか。ツイッターであって、教育環境って学校ごとにいろいろ違うかと思うんですけど、ある意味、悪く言うとやりがい搾取のところもあって、残業代が出ないとか、部活の負担が大変だとか。でもそれが好きな方もいるし、ちょっとそこまではという方もいらっしゃるかと思いますが。ただ、国の法律によってこういう制度で先生たちに働いてもらいますって決



まってるわけですね。だから、なかなか市ではいかんともしがないところはあるんですけど、根本的に変わらないと変わらない部分があるんですよね。ほかに何か皆さん課題に思うこととかないでしょうか。

王肥：課題というよりは、今の話を受けて、どこまで議員は教育関係のことに関われるのが気になったんですけど、どういふ場面まで関わる事ができるのか教えていただきたいです。

北崎：議員ってというか議会というのは、結果的に予算、お金をどう使うかっていうことで市長が執行部から提案されるので、予算の場合、近年では皆さんの近くにある城山中学校の建て替えも市から提案されて、こういう予算でしたいということ、それを議決して、今建てています。それから、子どもたち一人一人にタブレットを無償でお貸ししています。家庭的に厳しいおうちにはルーターも無償で貸しているの、各家庭の収入の差によって教育の格差がないようにしています。私は宗像市が福岡県の中で一番対応しているところではないかなって思うので、そういうのを決定するときに、僕も説明しながら、現場はこうなんですよって話ができるし、今度体育館にもエアコンが入るようにして、そういうふうな教育環境を少しでも良くしていくためにいろいろするのが議員の仕事じゃないかなって思います。

石田：議員の中にも、教育環境に熱いな議員もいて、少人数学級などを取り入れたいという提案もしています。基本的には執行部から上がった議案、予算を審議していくのが議会の仕事ですね。

石松：議案を提案するのは執行部なんですけど、そこでちゃんと審議して議決しないと駄目なので、そのときに教育に厳しい議員がいると緊張感を持って、しっかりチェックできるのかなと思います。議案に対して、「はい、いいですよ」って何もチェックせずに通したら、それはいい施策にならないです。そこが議員としての役割なのかなと思います。議員はそれぞれいろんなバックボーン、経験、専門性を持っていますので、教育になると、自分子どもとの親の立場もありますし、北崎議員みたいに先生をされていたら、すごい詳しいと思うんですけどね。議員間でも専門性とかはバラバラですので、それが20人いるっていうのは大事だと思います。



◆宗像での暮らしについて

北崎：アンケートの中に、若者の遊ぶ場所がない、飲食店がないってありました。僕らにとって飲食店は結構あるので、その辺の価値観が違うのかなと思います。そういう視点でまちづく

りを見たときに、任んでみて、いいところだけでもうちよっとうなったら便利なのとか、そういう意見はあります。

門司：買い物に行きたいときに、今任んでいけるの近くにはスーパーがあるんですけど、そこも少し遠いし、買い物をした後に歩いて帰るので、歩いて帰るの量が一度に買えないってのが、この大学3年間の悩みの一つですね。バスを使えば行くのにもいいけど、ちょっと遠いと感じています。飲食店に関しては、自分の周りは飲食するのなら赤間に行くか、天神とか博多に行くことがほとんどなので、そう考えたら、宗像にもう少し若者が行ける飲食店が多いといいと思います。

石松：宗像って車があれば便利なんですよね。

熊田：私は、1、2年生の頃は車を持ってなくて、3年生から車を持ったので、宗像で車を持ったらとても便利っていう意見と、車がなかったらもうどうしようもない状況を両方分かっているつもりです。バスが通勤の時間じゃな

かったら2時間後しかなかったりすると、どうしようもない気持ちになることはあります。

◆社会人になるために

石松：高校生から大学生になられて、次は社会人になったらどうなるんだろうって思われているかと思います。その辺りについてはどうでしょうか。

門司：教員になりたいって考えたときに、社会的には今、教員、教師はブラックって言われている中で、それしか耳に入っていない、これから教員になる自分たちは、どんな力を身につけておけば社会に対応できるのかっていうのが、ずっと思っていることです。なので、大学生のうちにもっとこんな経験をしておいたほうがいいとか、今の社会人にはこういうところが足りないから、それまでに身につけておいたほうがいい力とかがあったら、教えていただきたいです。

石田：人生の先輩として言えるのは、いろんなことを若いときに体験したほうがいいんじゃないかということですが、引き出しが多いほど、行き詰まったと

きに解決する力っていうのが、自然と備わってくるんじゃないかなと思います。

北崎：さっき、門司さんが漂着ごみが多いと感じたと話していました。そういうアンテナを張るのが大事なかなと思います。特に先生は、何でもこなさうなっているんだらうとか、それが何かを子どもと一緒に学ぶのいいです。6年生の社会科の授業で、歴史の前に政治が入ります。それは政治の仕組みを知った上で日本の歴史を勉強しようという、教科書のカリキュラムの組み替えがあったからです。今日、議会に来て体験されたのは、こういう体験をせずに新卒で教員になれる方よりも、皆さんもあと1年したら新卒になるので、今日の体験が役に立つかと思えます。先ほど石田議員が言われたように、いろんな体験するっていうのが大切です。世の中に無駄なことってないので、どんな仕事でも、そういうことでも、何らかの社会的な価値があるから、そういうのに目を向けるような人になっただほうがいいかなと。僕も議員を志したのは、自分が関わっているスポーツとか教育とかを、何らかの形で、政治

で変えていきたいというか、一緒にいい方向に持っていきたいなっていうのがあったからです。そういう感性がとても大事かなと思います。

石田：壁にぶち当たったときに解決していくためには、いろんな経験をしておかないといけません。だから、失敗は何度繰り返してもいいので、失敗からいろんなことをまた学びますので、おそれずに、いろいろチャレンジしたほうがいいんじゃないかなと思います。

◆住みたいまちについて

石松：市は定住施策に力を入れていますが、皆さんはどういう魅力があるところに将来住みたいと思いますか。

熊田：私はやはり交通の便がいいところですね。

土肥：現実的な話なんですけど、就職先があるところに住みたいなと思います。

門司：自分は本当に自然が豊かなところがいいので、海に近ければ海に近いほうがいいのと、店があればどこでもいいです。

◆ボランティアについて

北崎：今、福岡教育大の学生の人がたが、いろんな学校やコミュニティに教育ボランティアで行っています。そのときネットワークなのが、ボランティアで行って、二千円もらっても、交通費にほとんど使ってしまいます。例えば岬地区では、バスで行って帰って140円、もうそのお金は1000円です。そのなると140円損してしまいます。そこで今回、市が実費に合わせ出して、あとはプラスアルファをコミュニティで出すようになりました。そういう交通費に苦慮した経験はありませんか。

熊田：1年生のときからボランティアをしているんですけど、ボランティアに行っても、交通費を払わないといけないからマイナスになっちゃう感じの子は本当に多くて、今は車を持っているので、気軽にボランティアも参加できるんですけど。

北崎：地島のボランティアは、渡船料もかかるので交通費が高いと思います。が、実費でもらっていますか。

門司：自分が参加しているのが玄海学

園支援ボランティアというので、玄海小と玄海東小と地島小をメンバーでいろいろ回って、子どもたちに学習を教えるっていうので、教育委員会の方にバックアップしていただいているので、タクシー代や渡船料も全部払っていただいています。だから実際自分たちが払うのは、地島に行ったときに1泊して帰るんですけど、夜のご飯代ぐらいです。教育大にボランティアの紹介がいっぱい来るんですけど、お金を見たいときに交通費だけでほとんど取られるっていうのが多いので、自分が参加している玄海学園支援ボランティアみたいに、バックアップしてもらったら、もっと学生もボランティアに参加するんじゃないかと思っています。



北崎：宗像市は福岡教育大、それから日赤看護大があるから、皆さんみたいにボランティアで関わっていただけるのに、ボランティアへ行くときに、交通費で赤字になるのはいけないと思うから、そういう取り組みをされていて、今後もっと予算をつけてもらって、皆さん本当に関わっていただいて、子どもたちと「よかー」ってなってほしいです。そこはすごく大事なことだと思います。

◆問題意識を届けるために

石松：議会を身近に感じていただくのが今日の趣旨なので、その課題をどうやって市に取り組んでほしいのかとか教えていただければと思います。さっき言われたように玄海地区は交通手段もないし、バスも高いから市はそこに予算をつけるようなことをやっていきます。そこに声が上がっていったり、議員がこういう問題あるんじゃないですかということ、結構変わったりします。そういう原動力になっていただきたくなっているのがあります。

王肥：そもそもその問題意識を持って

石松：例えば宗像市だと、藻場の再生に取り組んでいるんですけど、そういうのは該当しますか。

王肥：そうですね。藻場再生は手段であって、海をよみがえらせるのか、そういう取り組みなんでですね。全体的にSDGs未来都市としてそこを目標そうとしているのは間違いないんですけど、それが具体的に何と何をやっていきますっていうのはなかなか難しいのかなと。

北崎：全てに連動している中で、今、宗像市は脱炭素社会、要は二酸化炭素の削減に取り組んでいます。「Save the sea」というのが市長の主張でもあり、議員全員の思いでもあります。その中で何をしているかと言ったら、藻場の再生、要は海藻が減少しているの、その対策に着手しています。一つがアミノ酸コンクリートって言って、コンクリートからアミノ酸が出てきて、それで藻が元気になるって、それにサザエとかアワビがついて、その稚貝を放流してみたいな感じで、循環型の漁業を目指しているけど、市だけでは、世界の中では針よりも小さいところだからこれは皆さんだけではなく、日本だけ

いたとしても、議員さんに届けるとか、そういう方法がよく分からなくて、「こう思っているのになあ」とは思っているも、そこで自分で終わってしまうのが現状なんですけど、どうやら私たちの声を届けることができるんじゃないか。

石松：一つの可能性としては、自分はSNSだと思っんですけどね。地元の町内の方とかは、行事に関わっているから、「ちょっとあんだ、これがこうなっちゃうよ」とか、教えてくれるんですけど、見ず知らずの方が問題意識を持たれたときに、SNSで直接コメントを取るっていうのが一つのやり方だと思えます。SNSに力を入れていく政治家もいて、「高校生からこういう提案があったので、自分で決断して実現しました」という市長もいると聞いています。そういうのも一つのやり方かなとは思っています。

◆SDGsについて

王肥：宗像市がSDGs未来都市に選

ではなくて、世界的に取り組んでいかないといけないと思います。SDGsの目標達成が2030年度になっているので、その共通意識の中で、取り組んでいるのかなと。

石田：私は農業をやっているんですけど、ちょっと前まで自然農法はあまり見向きもされてなかったんですけどね。ここ数年になって、薬とか化学肥料を使わないと。自然農法と言ったら、機械も使わないんですけどね。そこまではいかないまでも、機械を使うけど化学薬品とかは使わない。そういう農法は昔からあったんですけど、最近になって取り上げられるようになりましたね。



熊田：宗像市がSDGs未来都市に認



定されたってお聞きしたんですけども、サステナブルだけじゃなくってもっとリジエナティブな宗像市を意識した動きっていうのは、どこかで始まっているのでしようか。

※サステナブル…「持続可能な」という意味で、今以上に環境を悪化させないためにどうすればよいかという考え方

※リジエナティブ…「再生」という意味で、根本的な問題を解決し、環境をよりよい状態に再生させることを目指す考え方

定されるきっかけは世界遺産だと思えます。ただ、世界遺産になって5年経った中で、沖ノ島は非常に美しく映られています。ごみの回収がなかなかできず、漂着ごみがたくさん来ているって言うことが、一つの危機だろーと思えます。今から30年くらい前、釣川が汚染されて、ごみの川みだいになっていたのを、みんなでごみがえらそうと言って、桜つみをつくったり、ごみをみんなで拾ったり、水生生物を見て川の汚れの度合いを確認したり、釣川をきれいにしようという意識が非常に強かったんです。そういう流れがあったから、宗像の人たちは、自然を大事にしようっていう意識が強いんだと思えます。

門岡：沖ノ島がごみの島になっているって話あったんですけど、それを知っている人がいる中で、行動に移して、ボランティアとかでごみを回収しようっていう団体はあるんですか。



北崎…漁師さんたちがごみ拾いをして
います。ごみって最後は海の底に行く
んです。ごみが流れてきて、海底に沈
んで、それを引き上げてみると40年前
のごみだったと。結果ごみは消滅しな
いで、ずっと海の底にある。それを拾
うのは漁師さんしかいないから、海底
清掃を年に2、3回されています。だ
から、私たちにできるのは、とにかく
ごみを出さない、海に行かせないよう
にすることです。福津市にはうみがめ
課があって、ウミガメが来るって言っ
ているんですけど、実は宗像市にも来
ています。海はつながっているから、そ
ういう意識が大事になって。それは子
どもに伝えないとだめ。だから、大人
にはそういう子どもたちの見本になっ
てほしいなって僕は思います。

◆意見交換を終えて

石松…それでは、最後に皆さん一言す
つ感想をいただければと思います。
熊田…私は今回の意見交換さらに意識
が高まったというか、いろいろチャレ
ンジしてみようと思いました。アンテ
ナを張るのもそうだし、いろいろな経

験を今のうちにして、それをどうやっ
て、今後教員になったときに子どもに
伝えていくか。こんなことやってみ
て、自分がいいよとか、自分が行動で
示せる、自分もこんなことやってみ
たいな、経験として話せるよう
な人になりたいと思います。今も一
つボランティアをしているんですけど、
ほかにも宗像市でぜひ何かやってみ
たいと思って、もっと宗像市のこと
を知りたいなって思いました。

王肥…今回、身の回りで困ったこと
や気づいたことについて話したんだけ
ど、それって自分ごみの分別とか、
そもそも宗像市にこういう制度があ
るってことを知らなかったのかなっ
ていうことがすごく心に残っていて、
そのため知ることか行動することが
とても大切なんだなっていうことを改
めて強く感じました。最後に子ども
たちに伝えることって言う言葉があっ
たと思うんですけども、自分たちが
まず知って、いろんなことにアンテナ
を張って、伝えられる先生になりたい
と思います。あと、もっと宗像のこ
とを知りたいなって思ったんで、もっ
といろんなところに回ってみたいです。

門司…大学生の視点と、宗像市に長く
住まれている方々の視点が全然違っ
てに気づかされました。だからこそ、
県外から来た大学生に宗像の良さな
どを伝え、もっと大学生が福岡で働
きたいと思える環境をつくっていくの
は、自分たちSDGsクラブの役割なの
かなと思います。また、宗像市はSD
Gs未来都市として、藻場の再生など
に取り組んでいる、そういうことは大
学では学ぶことができないし、SDG
sクラブだからこそ学べることがま
だたくさんあるんだなっていうことが
分かったので、もっと自分から動い
て学んでいきたいなと思います。そ
して、子どもたちに伝えることができ
るようにしていきたいと思いました。